

雑誌「無罪」(迎賓館・横田裁判の完全無罪をかちとる会・事務局発行)原稿

2021年2月17日

終わらせたぜ！「痛快爆笑ボロボロ五輪」

福島にフタするな！東京五輪返上を求める会(たみとや副店長)富田剛

フクシマに

フタはさせずに 五輪(ご臨)終

女の怒り 世界にひびけ

(2月13日たみとや店長作・店頭掲示)

終わらせた！

2018年初夏、五輪返上運動は、たみとや店頭など「もう決まったんだから反対しても・・・」という多くの声のなかで始めた。

しかし、今、五輪は、ボロボロになって「終わっている」。

そして、一番、「終わらせた」と思うのは、今、みんなが、「反対していいんだ」と店頭で大きな声で話すようになったことだ。

以前は「私は反対なんだけど」と声を潜めて話をしていた女性が、もう一人の女性に「ほんと、“アンダーコントロール”発言から、ずっとおかしい！」

店頭で、店長にもかまわず話し続けて止まらない。

「2兆、3兆なんて金使って、豆腐一丁、二丁じゃないってんだ」

男性が言い放つ。

辞退の続くボランティアの理由でも

「五輪の意義が信じられない」。

「痛快爆笑ボロボロ五輪」

返上運動の「追い風」も次々と吹く中で、その対応が、まさに「痛快爆笑」物だった。

まず、2018年夏、五輪返上署名を開始した直後に「五輪に最適な季節」の猛暑。

東京都知事小池がやったことは、編み笠とミストと、かえって気温が上がっ

てしまったアスファルト舗装。

2019年初、最初の署名を組織委に出した後、「後で参加者が放射能汚染被害を訴えたらどうする？」と問うと、「その時には組織委は解散してます」？

それから、「福島聖火リレーコース出発点は、“フクイチ収束作業基地”だったJビレッジだが、放射線量は計測したのか？」と聞くと、「それは国と県がやることだから」？

そしたら、JOC 会長竹田の賄賂。

会長を辞任しても、竹田は IOC 委員に居座っているのに、仏当局に捕まるのが怖くて「海外出張はしない」？

2020年初、どんどん暑くなる夏を越えて、一層増えた第二回署名を組織委に出して、会長の森に面会を求めたら「私たちも滅多に会えません」??

そして、コロナ禍。

「アンダーコントロール」のアベが辞任し、カス政権の PCR 検査もしない無策・無責任のなかで、「聖火リレーは無選手で」???

その末に、女性をはじめとした日本と世界の声に追い詰められて、新国立競技場の利権が欲しくてずっとやってきた森のドタバタ辞任三文劇。

有力水泳選手の 20 代男性も「正直、この件についてアスリートが発信していくのは酷だなという発言が山下 JOC 会長からあったとは思いますが、少し今回はお話したい。そういう発言をする思考回路にいきつくところが信じられない。」

我々の運動も、署名に加えて、「面白く」ビジュアルにやった。

「動くモニタリング作戦」と銘打って、2019 年は、防護服を着て、東京の五輪競技会場や観光客の集まる繁華街の線量を測定した。

国際許容基準を上回る線量のところが続出し、東京の線量全体が、福島事故前に比べて倍増していた。

その間、当会も取材を受けたアメリカの労働運動ジャーナリスト S. ゼルツァーさん作成の YouTube 英語版ビデオ「Fukushima 2020 Olympics Nightmare: Is PM Abe Criminally Insane?」は、世界で 6 万 4 千回再生された。

昨年 3 月、3.11 反原発福島行動の日には、福島の聖火リレーコースを測定した。

郡山市の聖火リレーコース沿道の「普通」の歩道が、レントゲン室の許容線量の倍以上の線量だった。

同じ頃、聖火リレー出発点 J ビレッジの異様な高線量も判明した。

店頭に掲示し続けた「五輪競技会場・東京繁華街線量マップ」や「福島聖火リレーコース線量マップ」は大反響。

11月、全国労働者集会の日には、有楽町駅前「さようなら五輪」のサイレント・スタンディング。

オフコースの「さよなら」を流しながら、みんなのドレスコードは黒。

Twitterにも載せたら、これも受けた。

直後に参加した「中止だ！中止！！オリンピック！！新宿デモ」では、主催者に「あの“お葬式”の方々ですね！？」と声をかけられた。

最近、NBCに五輪批判論文が掲載され、森辞任のダメ押しになったスポーツ学のアメリカ人教授にも写真を撮られた。

facebookの当会ページの参加者数は、それまでの5倍に増えている。

ボロボロ五輪が見せた「怒りの出口」

やはり、今の店頭の声。

「全く！女いなきゃもうこの国、回らないわ！！失言にだけでなく、政府に対する怒りが出口見つけたっていう感じ！」

彼女は、さらっと、言っただけ。

そして、10年目のフクシマを前に、福島沖でマグニチュード7.3の地震。

五輪に「フクシマにフタ」はさせなかった。

しかし、

「・・・避難者の声。『(10周年闘争という言い方)に違和感がある。事故から10年じゃなく、事故が10年続いている』。胸を突かれた。」(NAZEN通信第94号2021年2月「3.11反原発福島行動‘21ー今こそ原発と核のない社会へ」椎名千恵子さん)

ボロボロ五輪が見せたのは、この国のひどいあり方そのものだ。

「怒りの出口」は「飯と人が中心の世の中」の入り口だ！！

以上

